

## 横浜市感染症発生動向調査報告 2月

### 《今月のトピックス》

- インフルエンザ流行警報発令中です(警報発令基準値:定点あたり30.00)。
- 第7週では、インフルエンザの流行の主体はB型です。
- AH1pdm09による、インフルエンザ脳症の報告が第3週にありました。

### 全数把握の対象

#### 【2月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	急性脳炎	1件
A型肝炎	2件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1件
デング熱	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	2件
レジオネラ症	8件	侵襲性肺炎球菌感染症	10件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	3件		

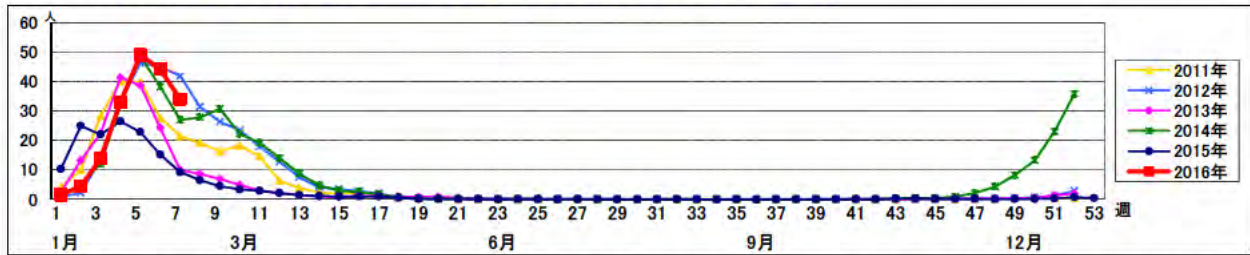
- 1 **細菌性赤痢**: *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、海外(タイ)での経口感染が推定されています。
- 2 **A型肝炎**: 2件の報告があり、1件は海外(インドシア)での経口感染、もう1件は感染経路感染地域不明でした。
- 3 **デング熱**: 1件の報告があり、海外(カンボジア)での感染が推定されています。
- 4 **レジオネラ症**: 肺炎型8件の報告がありましたが、現在感染経路等調査中です。
- 5 **アメーバ赤痢**: 腸管アメーバ症2件の報告があり、1件は性的接触による感染で、感染地域不明。もう1件は国内での感染で感染経路等不明でした。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**: 3件の報告がありました。
- 7 **急性脳炎**: 1件の10歳代の報告が第3週にありました。インフルエンザウイルスAH1pdm09が検出されています。
- 8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**: 1件の80歳代の報告があり、創傷感染が推定されています。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**: 無症状病原体保有者2件の報告がありました。どちらも国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 10 **侵襲性肺炎球菌感染症**: 成人例10件の報告があり、そのうち1件では予防接種歴(約1年前)が確認できましたが、他はすべて確認できませんでした。
- 11 **梅毒**: 4件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期2件、早期顕症梅毒Ⅰ期2件)があり、すべて国内感染例でした。感染経路では、異性間性的接触1件、性的接触(性別不明)2件、感染経路等不明1件でした。

## 定点把握の対象

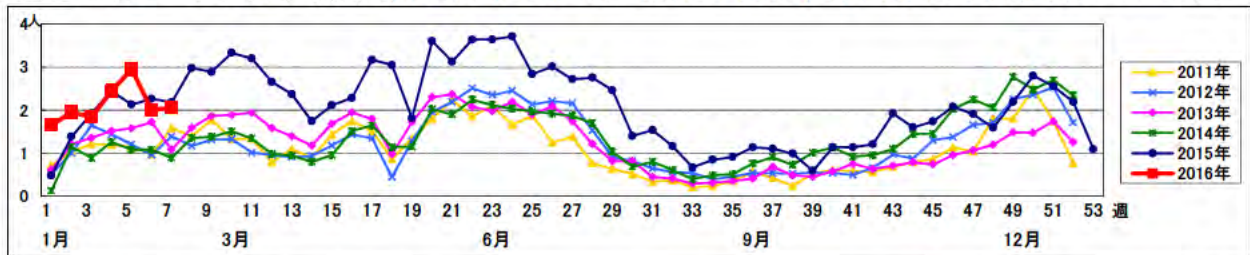
- 1 インフルエンザ:第4週に市全体で、警報発令基準値である定点あたり30.00を上回り、流行警報が発令されました。その後第5週48.93をピークに第7週33.90と減少傾向です。ただ、依然として報告が多い状態や、入院例の報告が続いており、引き続き注意が必要です。医療機関における迅速診断キットの結果では、いままで多かったA型に代わり、B型の報告の方が多くなりました。市内で検出されたウイルスでも、第7週はB型(Victoria系統)4件、B型(山形系統)3件、AH1pdm09型4件と、B型がA型を上回っていました。これからは、流行の主流はB型が占めるものと思われます。横浜市衛生研究所で実施したワクチン株との抗原性解析では、解析したAH1pdm09株とB型(Victoria系統)株はすべてワクチン株と類似していました。今後もインフルエンザの流行が継続すると考えられるため、手洗い等の感染予防や早期受診などの重症化予防対策が重要です。

平成28年 週一月日対応表	
第4週	1月25日～1月31日
第5週	2月 1日～2月 7日
第6週	2月 8日～2月14日
第7週	2月15日～2月21日

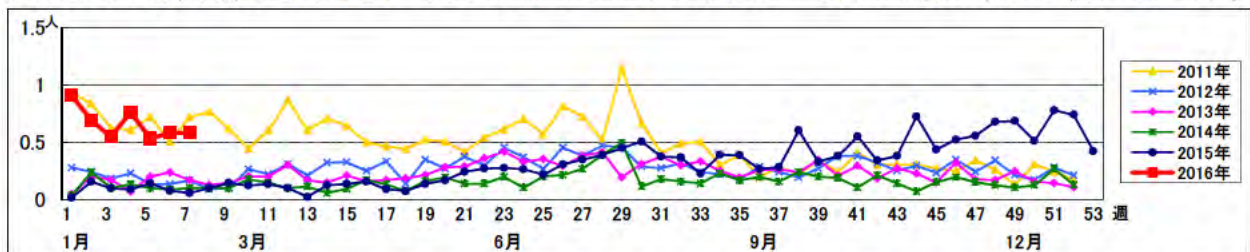
◆参考:[感染症臨時情報「インフルエンザ」\(横浜市感染症情報センター\)](#)



- 2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎:第7週は市全体で定点あたり2.05と、例年より報告が多くなっています。



- 3 流行性耳下腺炎:第7週は市全体で定点あたり0.58と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



- 4 性感染症:1月は、性器クラミジア感染症は男性が17件、女性が18件でした。性器ヘルペス感染症は男性が5件、女性が5件でした。尖圭コンジローマは男性が4件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が11件、女性が3件でした。
- 5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第4週0.67、第5週0.25、第6週1.50、第7週0.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第4週0.67、第5週0.00、第6週0.50、第7週0.00と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 6 基幹定点月報:1月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症4件の報告がありました。ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

### ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

### <ウイルス検査>

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点59件、内科定点24件、眼科定点3件、基幹定点15件で、定点外医療機関からは3件でした。

3月7日現在、ウイルス分離75株と各種ウイルス遺伝子15件が検出されています。

表 感染症発生动向調査におけるウイルス検査結果(2月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	咽頭結膜熱 <sup>*1</sup>	無菌性髄膜炎	流行性耳下腺炎	発疹症	心筋炎	弛緩性麻痺	ギランバレー症候群
アデノ NT <sup>*2</sup>				1	1						
アデノ 2型				1							
インフルエンザ AH1pdm09型		1	3	36					1	1	
インフルエンザ AH3型			1			1					1
インフルエンザ B型ビクトリア系統				17				1			
インフルエンザ B型山形系統				9							
パラインフルエンザ 1型				1							
パラインフルエンザ 2型				1							
パラインフルエンザ 3型				1				1			
ヒトコロナ <sup>*3</sup>		4		1							
ムンプス							2				
ライノ		1									
合計		1 5	3 1	66 5		1	2	1 1	1	1	

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:アデノ感染症を含む、\*2:型未同定、\*3:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

2月の感染性胃腸炎は、基幹定点から5件、その他から2件で、赤痢菌(*S. sonnei*)、サルモネラ(*S. Newport*)、*Campylobacter jejuni*が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から5件、基幹定点から10件、その他から71件でした。G群溶血性レンサ球菌は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。*Legionella pneumophila*の血清型は1群でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	2月			2016年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	5	2	0	14	8
菌種名						
赤痢菌			1			1
腸管出血性大腸菌						1
サルモネラ		1			3	
カンピロバクター			1			1
不検出	0	4	0	0	11	5

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	2月			2016年1月～2月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	10	71	9	13	111
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T4			1		
	型別不能	4		6		
G群溶血性レンサ球菌		1			1	1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌					1	
<i>Legionella pneumophila</i>			1			1
インフルエンザ菌						1
肺炎球菌		1	7		2	15
結核菌			53			77
百日咳菌		1			1	
その他		2	6		2	7
不検出	1	5	4	2	6	9

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】